

令和5年度

事業計画書



目 次

I	法人の概要	1
i	所在地	1
ii	設置する学校	1
iii	大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数	1
iv	役員・教職員数	1
II	事業計画	2
i	はじめに	2
ii	第3次中期計画における主要目標および主な取組事項	3
iii	令和5年度事業計画の主要項目	10
iv	部門別事業計画	11
法人事務局		11
v	部門別事業計画	13
大阪青山大学		13
1	健康科学部 健康栄養学科	13
2	健康科学部 看護学科	14
3	子ども教育学部 子ども教育学科	15
4	介護福祉別科	16
5	共通教育部	16
6	図書館（図書室・メディアセンター）	17
7	大阪青山歴史文学博物館	17
8	情報教育センター	17
9	リテラシーサポートセンター	18
10	地域連携・SDGs 推進センター	18
11	高大連携室	19
12	総務部	19
13	教務部	20
14	入試部	21
15	広報室	21
16	学生支援センター	22
17	進路支援センター	22
18	FD 推進委員会	23
19	SD 推進委員会	23
vi	部門別事業計画	23
青山幼稚園		23

令和5年度事業計画書

I 法人の概要

i 所在地

◎学校法人大阪青山学園

大阪府箕面市新稲2丁目11番1号

◎大阪青山大学

大阪府箕面市新稲2丁目11番1号

◎青山幼稚園

大阪府吹田市青山台4丁目5番

ii 設置する学校

1 大阪青山大学

健康科学部

健康栄養学科

看護学科

子ども教育学部

子ども教育学科

介護福祉別科

2 青山幼稚園

iii 大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数

(入学定員・収容定員：令和5年4月1日現在) (在籍者数：令和4年5月1日現在)

区分		入学定員	収容定員	在籍者数	備考
大学	健康科学部健康栄養学科	80	320	264	平成17年4月設置
	健康科学部看護学科	80	320	331	平成27年4月設置
	子ども教育学部子ども教育学科	80	340	251	令和4年4月学部化・在籍者数は健康科学部子ども教育学科と合算した数値
	介護福祉別科	80	160	36	令和5年4月設置
計		320	1,140	882	
幼稚園			※590	292	※認可定員

iv 役員・教職員数

1 役員数 (令和5年4月1日現在)

・理事 8名 ・監事 2名 ・評議員 17名

2 教職員数 (令和5年4月1日現在)

	教授	准教授	専任講師	助教	助手	教諭	別科教員	職員
法人	—	—	—	—	—	—		3
大学	31	17	15	7	5	—	5	58
幼稚園	—	—	—	—	—	26		4

※幼稚園の教諭数には、園長を含む。別科教員数には、1名准教授を含む。

II 事業計画

i はじめに

令和4年度は第三次中期計画二期目を迎え、篠原新学長の体制のもと、大きく変革する社会に本学園も変化し続けるべく、こども教育学科の学部化、地域連携・SDGs推進センターの開設、高大連携室、広報室の設置、共通教育センターから共通教育部への改組等を行った。また、本学園の創立55周年を記念し、様々な取組を実施した。

学部・学科別の取組としては、健康科学部健康栄養学科における産学連携による商品開発、健康科学部看護学科における学部化への取組、さらに子ども教育学部においては特別支援教諭課程設置に向けた取組等が行われた。

令和5年度は、中期計画の主要項目について、以下の取組を展開する。

主要目標に掲げた、「入学定員の確保」については、前年度の実績を踏まえ、入試WGを令和4年2月に立上げ、オープンキャンパスの活性化に向けた取組を展開するなど募集活動の強化を図り、令和5年度入学者は入学定員の確保には至らなかったが大幅な回復を示している。令和5年度は、前年度からの活動に加え、アドミッション戦略WG活動や高大連携室の連携高校拡大により、令和6年度入学定員の確保を実現させていく。

また「学生・保護者等の満足度向上」については、大学、幼稚園ともにアンケートを実施し、現状把握と課題点の抽出に取組んだ。大学ではアンケート結果を踏まえた「食の支援」、「システム環境の改善」、「各種の設備更新」の実施により、学生から高い満足度を得ることができた。一方、課題も提示されているため、令和5年度では更なる見直しを進め、満足度80%以上の実現を目指していく。

「キャリア支援体制の充実」としては、国家試験合格率の改善と実就職率の改善に向けた取組を実施した。国家試験合格率の改善に向けた取組は令和4年度では、まだ具体的な効果が表れていないため、令和5年度も継続して展開していく。実就職率の目標値達成に向けては、リモート面接指導や個別面接指導の強化、さらに求人システムの活用促進を令和4年度も実施した。令和5年度も継続展開していく。

「財務内容の改善」については、前年度大学入学定員の未達により、大学部門は厳しい数字となった。令和5年度は改善に向け、経費の圧縮に加えて、介護福祉別科のスタート、入学定員確保の実現、学納金収入等の拡大を図り、さらに寄付金活動の強化により、教育活動事業収支の改善を着実に進めていく。また保有資産の見直しを更に進め、財務体質の強化を図っていく。

「地域社会との連携に関する取組」については、創立55周年記念事業として令和4年度に開始した「桜まつり」、社会人教養講座「大阪青山塾」を令和5年度も継続して実施し、学園のブランド力アップを図る。さらに令和4年度より教員の活動を地域に認知いただくために開始したシンポジウムも継続開催させていく。ホームページの見直しやSNSの活用拡充による広報戦略の展開も併せて進めていく。

新たな活動を展開していく中でも、本学は個性豊かで人間性のある「品位ある人材」、「専門性の高い人材」を育てることに令和5年度も邁進していく。

第3次中期計画における主要目標

<p>入学定員の確保</p>	<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 入学定員充足率 100% ▶ 年間志願者数（最終年度）30%増 <p>幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 入園人数の確保 100人
<p>学生・保護者の満足度の向上</p>	<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 学生満足度 80%以上 <p>幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 保護者満足度 80%以上
<p>キャリア支援体制の充実</p>	<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国家試験合格率 <ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士 90% 看護師 100% 保健師 100% ▶ 保育士・教員採用試験合格率 100% ▶ 実就職率 95%
<p>財務内容の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 財務目標（最終年度） <ul style="list-style-type: none"> 教育活動収支差額比率 3% 経常収支差額比率 3% 私学事業団経営判断指標 A3

主な取組事項

I. 教育研究等に関する中期計画

1. 教育活動等に関する取組

(1) 入学定員の確保

<募集活動の強化>

- ▶ 高等学校との関係強化
- ▶ 奨学金制度の見直し **NEW**

<広報活動の強化>

- ▶ オープンキャンパスの充実
- ▶ 多様な広告媒体の活用
- 青山幼稚園 **NEW**
- ▶ 幼稚園のHPリニューアル、看板広告の実施

(2) 教育改革の実現

<教学マネジメントの確立>

- ▶ アセスメントポリシーに基づく教育改善
- ▶ 学生指導におけるGPAの有効活用
- ▶ アクティブ・ラーニング（※1）型授業の拡充
- ▶ クラス担任・チューター制度（※2）の機能発揮
- ▶ 入学前教育と初年次教育の充実
- ▶ 共通教育（「伝統文化」を含む）の充実

<分野毎の取組>

▶ 健康栄養学科の取組

- 魅力度向上および新コースの検討
- 産学連携による商品開発 **NEW**
- 国家試験対策の充実による合格率改善

▶ 子ども教育学科の取組 **NEW**

- 子ども教育学科の学部化
- 教員免許（特別支援）等の新たな教育課程の検討

▶ 看護学科の取組 **NEW**

- 電子端末等の教育ツールの導入
- カリキュラム改正への対応

青山幼稚園

▶ 青山幼稚園の取組 **NEW**

- 園児の成長に寄り添う保育内容の充実
- 預かり保育の時間延長
- 課外メニューの充実

<研究に関する取組>

▶若手研究員の研究活動の支援強化

▶学長裁量経費の積極活用

▶学科横断的なテーマによる共同研究の拡充

(3) DX (※3)・ICT (※4) 化を含む教育環境の整備

▶学内インフラの整備等

NEW

○学内ネットワーク環境の整備

○遠隔授業用のスタジオの整備

○授業内容充実のための教員向けの研修実施

○図書館機能の充実

▶ICT化への対応

NEW

○健康栄養学科 : 学生の個別指導システムの検討

○子ども教育学科 : GIGAスクール (※5) 構想に対応した実習環境の整備

○看護学科 : PC必携化による実習でのICT活用

青山幼稚園

▶ICTの活用および遊具等の設備の更新

NEW

○幼稚園経営、幼児教育におけるICTの活用

○遊具等の既存設備の計画的な修繕、更新

(4) 学生・保護者の満足度の向上

大阪青山大学

青山幼稚園

▶アンケート、意見の活用

○学生・保護者のアンケート意見の活用

○苦情や要望に対する満足度向上の観点からの検証

(5) キャリア支援体制の充実

▶国家試験対策等の充実

- 学力に応じた個別指導 NEW
- e-ラーニング（※6）の導入 NEW
- 外部サポートの活用

▶就職対策の充実

- 採用環境の変化への対応 NEW
- 求人システムの積極的活用
- 就職支援プログラムの充実

(6) withコロナ/afterコロナへの対応

▶安定的な教育事業の展開 NEW

- 国等の方針に沿った感染防止対策の徹底
- 対面・遠隔授業の併用のためのインフラ整備

▶学びの継続のための学生支援 NEW

- 奨学金等の学生支援の継続

2. 地域社会との連携に関する取組

大阪青山大学

- ▶地域連携センター（仮称）の設置 NEW
- ▶協定締結市（箕面市・池田市・川西市）との連携強化
- ▶ガンバ大阪とのイベント等での連携

青山幼稚園 NEW

- ▶運動会等のイベントへの地域住民の参加
- ▶放課後クラブ活動への近隣児童の参加

3. 卒業（園）生、保護者、同窓会に関する取組

大阪青山大学

- ▶大学の卒業生、保護者への対応
 - 学園広報誌の定期的な送付
 - ホームカミングデー（※7）の開催
 - 同窓会活動のサポート

青山幼稚園 NEW

- ▶幼稚園の卒園生、保護者への対応
 - 卒園生に対する招待イベントの充実
 - 幼稚園情報の積極的な提供

Ⅱ. 業務運営に関する中期計画

1. ガバナンス・コードに沿った経営強化

▶学長のリーダーシップ
による組織の強化

▶理事会・評議員会等
による適切な運営

▶中期計画の策定、進捗管
理

▶適時・適切な情報開示

▶内部監査の整備

2. 人事制度の運用見直し

▶社会の変化に対応した
労働環境の整備 **NEW**

▶人事評価制度の定着

▶SD(※8)/FD(※9)等
の研修プログラムの整備・
実施

3. リスクマネジメント

▶自然災害等に対するBCP(※10)

▶情報セキュリティ対策の整備、強化

▶業務運営、教育・研究活動における不正行為、ハラス
メントの根絶

4. 戦略的な広報および情報公開の促進

▶戦略的な広報活動の展開

- 広報誌等の学内コミュニケーション充実
- ホームページ等による積極的な情報公開

▶地域を含む外部への情報発信、連携

- イベント等を通じた地域への貢献
- 体育館の地元住民への開放等

▶ブランディング強化

- 他との差別化等のブランディング強化策の検討

5. 業務の効率化による生産性向上

▶業務プロセスの見直し **NEW**

- デジタル化、押印見直し等

▶外部委託業務の効率化 **NEW**

- 警備方法、スクールバスの運行見直し等

▶非効率業務の見直し

▶人事、稟議等のシステム化 **NEW**

6. 施設・設備の更新

大阪青山大学

▶大学の施設・設備の更新

- 中期計画に沿った設備の更新・修繕
- 箕面キャンパスの本格リニューアルの検討 **NEW**
- 北摂キャンパス・博物館の活用

青山幼稚園

▶幼稚園の施設・設備の更新

- 中期計画の策定および計画に沿った既存施設・設備の更新・修繕 **NEW**

Ⅲ. 財務内容に関する中期計画

1. 事業活動収入の増加

2. 事業活動支出の圧縮

▶教育活動収入の拡大

○定員確保、園児募集による収入の拡大

▶寄附金収入の増加

▶適切な人件費コントロール

▶管理経費の圧縮

【語句の説明】

- ※1 アクティブ・ラーニング：教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授、学習法の総称のこと。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習に加え、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法とされる。
- ※2 チューター制度：少人数の学生グループに対して一人の教員が「チューター」となり、よりきめ細かい学習支援を実施する制度。
- ※3 DX：データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。（Digital Transformation の略）
- ※4 ICT：情報通信技術のこと。（Information and Communication Technology の略）
- ※5 GIGA スクール構想：1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく公正に個別最適化され、資質、能力が一層確実に育成できる教育環境を実現しようとする文部科学省の構想のこと。（GIGA=Global and Innovation Gateway for All の略）
- ※6 e-ラーニング：学びを電子化したもので、パソコンやタブレット、スマートフォン等を使ってインターネットを利用して学ぶ学習形態のこと。
- ※7 ホームカミングデー：卒業生などを大学に招いて歓待し、大学との絆を深めるイベント
- ※8 SD：教職員が大学等の運営に必要な知識、技能を身に付け、能力、資質を向上させるための取組みのこと。（Staff Development の略）
- ※9 FD：学習者を中心とした大学改革を目指して、授業方法やカリキュラム内容を改善、向上させるための組織的取組みのこと。（Faculty Development の略）
- ※10 BCP：事業継続計画のこと。法人が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。（Business Continuity Plan の略）

iii 令和5年度事業計画の主要項目

令和5年度は以下の事項を学園の主要取組項目とする。

I. 教育活動等に関する取組
○入学定員の確保 募集活動強化、オープンキャンパス活性化策等の検討・実行、アドミッション戦略ワーキンググループによる志願者数増強策の策定、高大連携室による提携高校の拡大
○教育改革の実現 学生指導における GPA(※1)の活用、共通教育の充実等による教学マネジメントの確立 各学科別・青山幼稚園における以下主要課題への取組 健康栄養学科 : 産学連携による商品開発(継続)、コース制の充実(新規) 看護学科 : 学部化に向けた体制整備完了(継続)、大学院設置に向けた取組 子ども教育学部: 特別支援教諭課程の申請(継続)、GPA を活用した個別学修・実習・就職支援(継続) 共通教育部 : 入学前教育プログラムの充実 介護福祉別科 : 留学生受入及び教育体制の確立(新規) 青山幼稚園 : 英語クラスの創設・運営(新規)、未就園児クラスの充実(継続)
○学生・親等の満足度の向上 アンケート意見の分析・活用さらに北大阪急行延伸等の外部環境変化に対応した学生満足度向上施策の実施、在学生の退学率3%未満の達成
○キャリア支援体制の充実 国家試験対策等の充実並びに合格率の改善、就職対策の充実
○地域社会との連携に関する取組 社会人教養講座大阪青山塾開催等をはじめとする地域連携活動の継続展開 地域と学生・教職員が一体となって運営する「第2回お城桜まつり」の開催 SDGs 活動の推進によるブランド力強化、子ども教育学部第2回定期演奏会開催
II. 業務運営に関する取組
○創立60周年に向けた中期システム・設備計画の立案と各種インフラの計画的更新 ○システム化により削減・省力化された非効率業務の効果検証 ○北摂キャンパス、博物館の活用・活性化
III. 財務内容に関する取組
○資金収支の大幅改善及び経常収支の改善 ○学生定員確保、園児募集の強化による教育活動収入の増加 ○管理経費の削減、人件費の適切なコントロールによる経費削減

iv 部門別事業計画 法人事務局

1 理事会・評議員会

寄附行為さらには令和2年4月に制定した「大阪青山学園ガバナンス・コード」（以下、ガバナンス・コード）に基づき、理事会・評議員会を運営していく。

理事会は、経営機能と管理運営機能の充実を図るため、8月・12月を除き毎月1回の開催を基本とし、常任理事会を通じて、学園、設置校に係る情報を早期かつ着実に集め、活発な運営を図ることを第一とする。また、理事会と常任理事会の役割、権限を明確化し、効率的な運営を行う。

令和4年度は8月、12月を除き毎月理事会を開催し、様々な重要事案を審議した。令和5年度も、これまでと同様に理事会開催スケジュールを事前に定め、計画的に運営していく。

また、評議員会は、寄附行為さらにはガバナンス・コードに記載の通り、理事長が理事会の審議に先立って評議員に意見を聴取し、また理事会の決定を報告するなどして評議員より意見を求め、経営に活かしていくように努める。評議員の選出方法や権限の拡大については、今後の法令変更や行政指導等があれば、具体的な対応を検討していく。

令和4年度は評議員会を令和4年5月26日、令和5年1月27日、令和5年3月24日の計3回開催した。予算承認、決算承認に加えて、補正予算さらに令和5年度事業計画骨子などを付議事項として、評議員に意見を求めた。令和5年度も評議員会日程を予め設定し、計画的な運営を実施していくこととする。

令和5年度は教育活動収入の増加を図るとともに、資金収支の改善と経常収支の改善を進めていく。

2 将来構想委員会

第3次中期計画に盛り込まれない事項等で理事会や常任理事会で方向性が定められていない重要事項が生じる場合は、幅広く検討し、適宜本委員会を開催して協議を実施する。中期システム・設備投資計画の策定を令和4年度より進めているため、令和5年度では本委員会に当該事案を付議する予定である。なお具体的な施策と取組の審議については大学運営推進会議に委ねる。

理事長、学長、理事長が指名する役員、副学長、学部長、経営企画室長、教務部長、総務部長を委員会構成員として、「大阪青山将来構想委員会規程」に基づき運営する。

3 大学運営推進会議

令和3年度より「大学運営推進会議」を新たに設置し、大学運営の重要事項を審議する機能を集中させている。

また、IRに関する協議事項も審議するため、各部門の活動状況についても経営企画室より報告を求める体制とした。

学長、副学長、学部長、各学科長、事務局長、教務部長、学生支援センター長、進路支援センター長、入試部長、総務部長等を会議構成員として、毎月1回定期的に開催し、「大阪青山大学運営推進会議規程」に基づき運営されている。

令和4年度は26件の審議事項と50件の報告事項が本会議に付議され、活発な議論

が展開されており、令和5年度も大学運営の主要な会議体として、参加者の活発な議論により会議運営を進め、スピーディーな審議と意思決定を行っていく。

4 経営企画室

(1) 入学定員の確保

① 募集活動の強化

- ・前年度に引続き、入試部と連携し、ワーキンググループ(以下 WG)活動を通じた志願者数増加・入学定員確保に向けた施策立案をサポートする。アドミッション戦略WGや高大連携室との連携を図り、募集活動を展開していく。

(2) 教育改革の実現

① 新たな教育分野への取組

- ・令和5年度よりスタートする介護福祉別科の安定運営を行うべく、定期的に別科会議体に参画し、各種課題の進捗確認・解決サポートを行う。

(3) ガバナンス・コードに沿った経営強化

① 中期計画の進捗管理・見直し

- ・学園全体の中期計画アクションプランの進捗確認や計数集計を実施し、定期的に経営に進捗状況を報告する。中期計画策定から3年目となっており、当初計画外の新規施策も実施されていることや、財務計画も実績と乖離が生じているため、関係各部署と協議の上で中期計画修正案、中期システム及び設備計画の策定を検討の上、提示する。

② 適時・適切な情報開示

- ・事業報告及び事業計画の開示を適切に実施するとともに、学園IR(※2)ダッシュボードにより大学運営推進会議・常任理事会等に対して基本計数を定期報告する。
- ・各種のアンケート分析などにより、課題解決のために重要な基本資料を整備し、大学運営推進会議・常任理事会等に報告を実施する。

③ 内部監査の実施

- ・前年度同様に内部監査マニュアルに基づき、令和5年度監査方針・監査計画を立案して、内部監査を計画的に実施する。監査実施後の結果については、監事・理事への報告に加え、被監査部署のフォローについても適切に実施する。

(4) 戦略的な広報及び情報公開の促進

① 戦略的な広報活動の展開

- ・ホームページ改定後の情報発信状況・閲覧状況を広報室とともにフォローする。SNSについては、前年度比10%アップの情報発信を行い、積極的な学園広報を展開する。

② ブランディング強化

- ・地域と連携した「お城桜まつり」、SDGsを意識した社会人教養講座「大阪青山塾」を令和5年度も継続開催し、大阪青山のブランディング化を地域連携・SDGs推進センター、広報室等とともに図っていく。また、令和5年度より開始する介護福祉別科についても地域に根差した活動を行い、ブランド化を進める。

v 部門別事業計画 大阪青山大学

1 健康科学部 健康栄養学科

(1) 教育改革の実現

① 学生指導における GPA の有効活用

- ・成績優良な学生だけでなく、GPA が低い学生についても、適切な支援ができるようにする。また、健康、生活、学修支援の体制についても整備する。

② アクティブ・ラーニング型授業の拡充

- ・授業公開や研修会を行い、継続的に授業の質向上に取り組む。

③ クラス担任、チューター制度の機能発揮

- ・特別時間(※3)を活用した他学年間との交流機会を企画する。具体的には、新入生と先輩との交流イベントを実施し、学年間を超えた継続的なコミュニケーションの構築を図る。
- ・クラスメートとの「学修の支え合い」「課題作成」などのテーマを設定し、参加することに意義のある内容を検討することにより出席率の向上を目指す。

④ 魅力度向上および新コースの検討

- ・設置した健康スポーツ栄養コースの活動の充実化、学外の施設・団体との連携を強化する。
- ・コース活動に関連する新たな科目の設置を検討し、コース制の充実化を図る。
- ・教員や学生の学内外の活動を積極的にホームページで発信する。

⑤ 若手研究員の研究活動の支援強化

- ・科研費採択経験者などによる勉強会を開催し、若手研究者の科研費への積極的応募を促す。
- ・令和5年度は、目標指標として若手研究者の申請件数を2件以上、教員あたりの平均申請数を0.5以上とする。

⑥ 学科横断的なテーマによる共同研究の拡充

- ・学長裁量経費を活用し共同研究の公募を強化し、さらに応募件数を毎年2件以上を目指すように促す。

(2) DX・ICT化を含む教育環境の整備

① ICT化への対応

- ・1、2年次からのeラーニングシステム活用を促進するため、各担当教員における授業や課題において、システムを利用させる学修プログラムを導入する。
- ・eラーニングシステムのラーニング・アナリティクスを行い、効果的なシステム利用方法を学生に示す。

(3) キャリア支援体制の充実と学生満足度の向上

① 国家試験対策等の充実

- ・総合演習検討会を設置し、総合演習の内容について見直しを行う。担当教員間の連携の強化、中間試験の導入などにより基礎学力の定着を図ることで、令和5年度に90%以上の合格率を目指す。

② 退学率の改善

- ・前年度の退学状況を分析し、教務部と連携の上で退学率の改善を目指す。

(4) 地域社会との連携に関する取組

①産官学連携による商品開発

- ・海洋資源の保全をテーマに「プラントベース食品」の開発に取組、学生食堂で提供する。

2 健康科学部 看護学科

(1) 入学定員の確保

①オープンキャンパスの充実

- ・令和5年度は、昨年同様に複数の領域で企画し、看護学科の良さを示す場とする。
- ・高校へへの出張講義は、年間を通じて継続的に実施する。

(2) 教育改革の実現

①入学前教育と初年次教育の充実

- ・入学前に学内で実施する「学生の集い」で入学者の入学に対する不安軽減を図るとともに、要配慮学生等をチューター及び担任等とで情報共有を図る。
- ・令和5年度は、昨年同様に大学でのミニ講義などを継続実施する。

②看護学科の取組

- ・新カリキュラムにおける演習科目の増加を予定しているため、混乱なく効果的に進行しているか注視する。
- ・令和5年度(2年次)に「ライフスタイル論Ⅰ・Ⅱ」や「がん看護」「家族看護」など領域横断科目も開講するため、対象者の人生を年齢別に分けない生活者として捉える視点が培えるように取組む。
- ・患者シミュレーターを実習前、中、卒業前などに活用し、技術能力および臨床判断能力の向上を目的にワーキンググループを作り、目標設定と年間計画を立て実施する。
- ・学部化に向けた体制整備の完了とともに大学院設置に向けた取組を進展させる。

(3) DX・ICT化を含む教育環境の整備

①ICT化への対応

- ・電子テキストの使用状況、効果を調査する。

(4) ステークホルダーの満足度向上

①学生指導におけるGPAの有効活用

- ・1年次から特別時間の中で実施している学習対策の充実を図る。
- ・学修に問題があると思われる学生に対して、チューターとクラス担任との協力の元、1年次から原級留置、休学、退学にならないよう、指導の徹底を行う。

②退学率の改善

- ・前年度の退学状況を分析し、教務部と連携の上で退学率の改善を目指す。

(5) キャリア支援体制の充実

①国家試験対策等の充実

- ・1年次から授業に加え、補講を組み国家試験を見据えた学習対策を行う。
- ・各学年の担任、チューターによる個別の対応も取入れ、学生に応じた学習方法を

提案し、学力の向上に努める。

(6) 地域社会との連携に関する取組

①協定締結市との連携強化

- ・令和4年度に実施した「社会人教養講座」に令和5年度も教員が参画し、地域社会との交流と連携強化を図る。

(7) 卒業生、父母等、同窓会に関する取組

①大学の卒業生、父母等への対応

- ・ホームカミングデイに在校生の参加を促し、自身の将来像と重なる先輩たちとの交流機会を企画する。

3 子ども教育学部 子ども教育学科

(1) 入学定員の確保

①オープンキャンパスの充実

- ・入試部依頼の出張授業を積極的に引き受けていく他、入試広報活動に同行し、子ども教育学部の広報活動に力を入れる。
- ・学生の意見を取入れ、高校生にとってより魅力的なミニ講義・体験授業を企画・実施する。

(2) 教育改革の実現

①アクティブ・ラーニング型授業の拡充

- ・教職演習室の活用により、ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業のさらなる増加を図り、授業担当者ごとにシラバスに反映させていく。

②クラス担任制度の機能発揮

- ・初年次教育の見直しにより、一定の効果が得られたことを手掛かりに、ゼミ形式の人数構成や授業内で採り上げる内容について精査していく。
- ・心身の健康状や成育歴に課題のある学生が増加傾向にあり、多様な支援ニーズに対応していくため、学科での情報共有を元に個別の特性に応じた個別支援をより一層強化していく。

③新たな教育課程の検討

- ・特別支援教諭課程申請の令和6年度の設置認可に向けて、教員配当やシラバスの再検討を行う。認可後の開講形式などについても検討し、卒業生を中心としたリカレント教育のあり方についても検討する。また、社会福祉士(受験資格)や教科ごとの教員免許等の申請について引続き検討していく。

④若手研究員の研究活動の支援強化

- ・若手研究者が充実した研究活動ができるよう、学科内での業務分担のさらなる見直しを図る。

(4) キャリア支援体制の充実と学生満足度の向上

①保育・教育職に関する採用試験対策等の充実

- ・学科独自の入学前教育と初年次教育に連関を持たせ、早期からキャリア教育を行う。
- ・担任を中心に、学生の希望する進路支援ができるようサポート体制を充実させて

いく。

- ・GPA等を活用しながら、実習や就職に関する個別指導をより充実させていく。

②退学率の改善

- ・前年度の退学状況を分析し、教務部と連携の上で退学率の改善を目指す。

(5)地域社会との連携に関する取組

①協定締結市との連携強化

- ・令和4年度に開催した「第1回子ども教育学部定期演奏会」を、令和5年度も学部独自の地域貢献活動の一環として開催する。

4 介護福祉別科

(1)入学定員の確保

①募集活動の強化

- ・海外留学生の獲得に向け、日本語学校等の諸団体との連携を強化する。

②広報活動の実地

- ・開設初年度であり、介護施設等へ訪問し、介護福祉別科の周知に努める。

③介護福祉士実務者研修の設置準備

- ・令和6年4月実務者研修の設置に向け、マスタースケジュールを作成し、計画的な取組を行う。また、その進捗状況について定期的に報告を実施する。

(2)教育改革の実現

①国家試験対策等の充実

- ・学力に応じた個別指導を行うシステムを検討する。具体的には、Googleフォーム等で問題を配信し、学修状況に合わせた問題配信・指導を行う。

②ICT化への対応

- ・遠隔授業を行う際の授業の展開方法について、教員間で差が出ないように研修の実施や情報共有を適宜行う。

③学生の満足度の向上

- ・Googleフォームを活用し、学生アンケートを実施する。満足度が80%に達しているかどうか確認し、改善に向けた取組を実施する。
- ・学生受入の支援体制を検証の上で、確立させていく。

5 共通教育部

(1)教育改革の実現

①入学前教育と初年次教育の充実

- ・入学前プログラムとしてオンデマンド形式のセミナーを開催する。
- ・eラーニングシステム「アオドリ」については、1年次における「日本語Ⅰ」での「国語」分野の活用を継続する。また、健康栄養学科国試対策担当者、リテラシーサポートセンターのスタッフに対する利用説明会を実施する。

②共通教育(「伝統文化」を含む)の充実

- ・令和5年3月に実施したシンポジウム「大阪青山大学における教養教育」での意見や課題を元に、全学共通教育に関する構想案をさらに各学部や委員会で議論

し、具体化していく。

6 図書館（3号館図書室・4号館メディアセンター）

(1) DX・ICT化を含む教育環境の整備

① 学内インフラの整備等

- ・蔵書充実を図るため、学科図書委員との連携を強化するとともに、シラバスに記載された参考図書については可能な限り整備することとする。
- ・令和5年度は、参加希望学生による選書ツアーをWEB開催でなく対面現地開催方式での実施を企画する。

(2) 業務の効率化による生産性向上

① 業務プロセスを見直し

- ・カウンターでの教員と職員による現金授受について、経費精算システムの導入に伴い、総務部と効率化に向けた調整を行う。
- ・「青山さんの本棚」については新しい公式HP上での公開と周知を徹底する。

7 大阪青山歴史文学博物館

(1) 地域を含む外部への取組

① 博物館の活用

- ・川西市の公民館との連携講座や、地元自治体の見学講座を実施する。
- ・収蔵品を学内外の研究者との共同研究に活用する。
- ・設備更新については要望が認められた部分から順次進めてゆく。
- ・「お城桜まつり」企画の中で、貯蔵品展の開催を実施する。

(2) 事業活動支出の圧縮

① 管理経費の圧縮

- ・博物館事務の費用の中で、光熱費（電気）が占める割合が大きい1階収蔵庫の空調管理の停止について検討する。

8 情報教育センター

(1) DX・ICT化を含む教育環境の整備

① 教育環境整備の支援

- ・各学科が利用するeラーニングシステムでのラーニング・アナリティクス（学習履歴情報分析）の活用を支援する。
- ・子ども教育学部でのICT教室の実践的活用を支援する。
- ・幼稚園での園児管理システムの効率的利用のための支援を継続する。

② 学内ネットワーク環境の整備

- ・中期システム計画を策定し、学内の所管部署と計画的に進める。
- ・Microsoft Teams活用の学務利用を促進する。
- ・北摂キャンパス、幼稚園等のネットワークインフラ整備を行う。
- ・勤怠管理システムや清算システム等の技術的支援を行う。
- ・クライアントOSのWindows11化に向けた計画を策定する。

(2) リスクマネジメント

① 自然災害等に対する BCP

- ・ BCP 対策としての外部 HDD へのバックアップおよびオフライン保管を実現する。

② 情報セキュリティ対策の整備・強化

- ・ 「情報セキュリティポリシー」の遵守のため、情報教育センターにてセキュリティ対策講座を企画・実施する。
- ・ ウィルス対策ソフトウェアをより強固なものへ全学的に移行する。

(3) 業務の効率化による生産性向上

① 業務プロセスの見直し

- ・ 総務部とシステムでの事務効率化を進める。

9 リテラシーサポートセンター

(1) 教育改革の実現

① 学生指導における GPA の有効活用

- ・ 1 年次生を中心に早期の学修支援が展開できるよう、各学科と協力の上で 4 月に SA(※4) とグループで相談ができる機会を設ける。
- ・ 給付奨学金の適格認定(学業等)の警告を受けた学生へ、学修相談期間を設けて個々の学修課題に対応を行う。
- ・ 1 年次生が孤立せず学修に関する質問が大いに行えるよう、センター企画でスタッフとの交流機会を確保する。

(2) 業務の効率化による生産性向上

① 非効率事務の見直し

- ・ 事業計画と SA・学生の希望に応じて、アドバイザーは計画立案と実施を行う。
- ・ 役割に応じた学修支援サービス(基礎学力支援、レポート指導、学修面談、SA 中心の企画等)を提供する。

10 地域連携・SDGs 推進センター

(1) 地域社会との連携に関する取組

① 「地域連携・SDGs 推進委員会」の開催

- ・ 定期的に本委員会を開催し、各学科や部署との連携を密にし、地域連携活動に努め実行状況を適切に管理する。また、SDGs の取組指針を策定し、地域活動の広報にも注力する。
- ・ 「箕面富いちご」は、引続き商品開発や改良に務める。また、製造業者を探すなど開発した商品の製造体制の整備を支援する。

② ガンバ大阪とのイベント等での連携

- ・ 吹田スタジアム特設テントでのイベントを、年 2 回実施する。
- ・ ジュニアの生徒や保護者向けの栄養・健康講座を、リモートも含め年間を通して継続実施する。
- ・ 青山幼稚園等でガンバ大阪コーチによるサッカー教室を、年 2 回実施する。

③ サントリーサンバーズとのイベント等での連携

- ・「サントリーサンバーズ」選手の運動能力測定や練習見学、食事メニューの調査などに取組む。また、調査したデータのフィードバックやホームゲームでの運営支援など、チームとの連携強化に務める。

④「第2回お城桜まつり」の開催

- ・令和5年度は、より多くの学生が参加し、地域に本学や北摂キャンパスをより認知されるように、継続実施する。

⑤「社会人教養講座」の開催

- ・昨年度の反省を踏まえ、募集期間の確保や、講義数の増加により受講生を増やし、本学の教学の拠点としての位置づけの向上を図る。

11 高大連携室

(1) 教育活動等に関する取組

①体制の整備

- ・継続して学内の各学部、学科との連携を強化し、組織機能を向上させる。
- ・高大連携を全学で取組むという学内コンセンサスの確立に努める。

②「教育交流に関する協定」締結校を中心とした高大接続事業の展開

- ・協定締結校を中心に出張授業等の各種教育連携プログラムを継続実施する。
- ・提携高校の拡大や新しい高大接続事業を検討する。

12 総務部

【庶務課】

(1) 人事評価・人材育成

①人事評価制度の定着

- ・職員評価は規程通り運用を継続する。教員評価については学長とスケジュールを確認し、実施時期などを調整していく。

②研修プログラムの整備・実施

- ・入試部門関連、文部科学省動向、認証評価関係についての勉強会開催を企画し、教職員のレベルアップを図る。

(2) リスクマネジメント

①自然災害等に対するBCP

- ・自然災害の発生にも配慮して、中長期設備更新計画を策定する。
- ・情報セキュリティポリシーに紐づく具体的な運用規程を情報教育センターと協力の上で制定し、運用を行う。

(3) 施設・設備の更新

①大学の施設・設備の更新

- ・学園のDX化は、情報教育センターにより中期システム計画を策定のもと、各教室設備等の強化及び中期設備計画と連動した投資を進めていく。

(4) 業務の効率化による生産性向上

①業務プロセスの見直し

- ・勤怠管理システムおよび、経費精算システムの安定稼働を目標に、学園内の運用

ルールを再度見直し、教職員へ周知を行っていく。

- ・システム導入の効果について検証を実施し、報告を行う。

【経理課】

(1) 教育改革の実現

① 若手研究者の研究活動の支援強化

- ・科研費への応募については継続してサポートしていく。採択の為の勉強会などもFD推進委員会や各学科と調整の上、実施していく。また科研費以外の研究助成についても積極的に案内し学内全体で応募件数を増やしていく。

② 学長裁量経費の積極活用

- ・5件以上の応募と採択を目標として、教員への早期告知を進めていく。

(3) 事業活動支出の圧縮について

① 管理経費の圧縮

- ・人件費の抑制、コントロールが課題であり、過剰な教員数にならないよう学科と財政面について協議する。

② 寄付金収入の増加

- ・55周年記念の寄付金を創立60周年まで実施し、受配者指定寄付金の周知拡大を諮り寄付金の確保を行う。

(4) 地域を含む外部への情報発信、連携

① 地元住民等への施設開放

- ・体育館やテニスコートの一部やグラウンドを一般開放し、北摂キャンパスの活性化を図る。

13 教務部

(1) 教育改革の実現

① アクティブ・ラーニング型授業の拡充

- ・空室利用計画においてグループ学修室等の対応ができるように依頼している。また、研修会の開催についても検討していく。

② ティーチングポートフォリオの実施

- ・前期・後期に1回ずつ授業公開を実施する。実施期間等FD委員会を中心に検討し、教授方法の工夫・開発と効果的な実施を教員の意見を取入れ実施する。

③ 学生指導におけるGPAの有効活用

- ・退学率は上昇傾向にあり、各学科と連携して、学生支援体制（心のケア含む）を強化し、退学率3%以下を実現する。

④ 各学科への支援

a. 健康科学部 健康栄養学科

「その他の領域」及び「生物・化学」について見直しの要請を行う。

b. 健康科学部 看護学科

新カリキュラム導入に伴い、再履修生等に不利益が生じないよう十分に配慮する。

c. 子ども教育学部 子ども教育学科

新教育課程設置における文部科学省からの指摘事項に直ちに対応し、令和6年度からの特別支援教諭課程の開設を実現させる。

(2) 業務の効率化による生産性向上

① 業務プロセスを見直し

- ・授業アンケートをAポータル(※5)で実施しペーパーレス化を行う。また、FD推進委員会と協力し、回答率90%以上を目指す。

14 入試部

(1) 入学定員の確保

① 募集活動の強化

- ・志願者数合計の対前年比5%増加を目標とする。
- ・オープンキャンパス、進学ガイダンス、高校訪問、各種媒体を通じ、総合型選抜(A0入試)のメリットを強力にアピールし、実施方法、入試対策等を周知することで、総合型選抜の志願者を増やす。

② 高校との関係強化

- ・訪問校数を増やす努力と訪問の精度を上げる工夫をする。
- ・高校現場からのヒアリング内容をイベント企画や制度設計に活かす。
- ・出張授業については、高校訪問と進学ガイダンス業者への予算の傾斜配分によって、依頼件数を増やす。

③ 奨学金制度の見直し

- ・子ども教育学部創設記念奨学金を令和3年度と令和4年度に実施したが、同様の奨学金制度を全学部に適用拡大する。特別指定校の奨学制度と併用を可とし、出願者(制度利用者)増を図る。
- ・指定校は指定先・人数・条件などを見直し、5月までには確定させ高校へ告知する。

④ オープンキャンパスの充実

- ・オープンキャンパスは年間を通じて9回実施する。オープンキャンパス参加特典を継続し、早期よりの告知で動員増を図り、来場者数1,000名超を目指す。
- ・体験型(調理体験等)のイベントを充実、立地を活かした夕刻開催を検討し、さらなる出願率向上を目指す。
- ・WEBオープンキャンパスは動画視聴方式にし、いつでも視聴可能とする。

⑤ 多様な広告媒体の活用

- ・告知内容・ターゲットを時期に応じて設定(オープンキャンパス、総合型エントリー、入試出願、低学年の興味喚起)し、公式サイト、進学雑誌、交通広告、WEB広告、ダイレクトメール等を適所に使い分け、経費の選択と集中をさらに進める。
- ・全面改訂された公式サイトへの流入をさらに増やすべく、広告媒体からサイトへの導線を強化し、資料請求者数・閲覧者数を増やす。

15 広報室

(1) 戦略的な広報、ブランディング

①戦略的な広報活動の展開

- ・学内掲示板やデジタルサイネージを活用して、学生も参加可能な教員活動を告知する。
- ・必要に応じて新ホームページの構成を見直し、「問合せボタン」のクリック数について3,500件（昨年度比116%）の獲得を目指す。

②ブランディングの強化

- ・地域連携活動をはじめとする教育・研究活動について、SDGsを意識した方法で展開できるホームページ構造を構築する。

③広報活動の支援

- ・各部署、各学科で従来制作している告知物を広報室で内製化することで、業務の負担軽減や、外部発注費の軽減を図り、学園全体の広報活動の支援を行う。

16 学生支援センター

(1)教育改革の実現

①学生指導におけるGPAの有効活用

- ・GPAを活用し成績が低迷している学生のケアを、リテラシーサポートセンターと連携して実施する。

②クラス担任、チューター制度の機能発揮

- ・教員への事務的な負担をケアしながら、担任・チューターと必要に応じて連携していく。

(2)学生の満足度の向上

①学生生活・意識実態調査の意見活用

- ・設問項目は、北大阪急行延伸に伴う学生のニーズ等、新年度の課題に沿ったものを新たに加え、学生満足度80%以上を目指す。

(3)with コロナ/after コロナへの対応

①学びの継続のための学生支援

- ・家計急変時給付金の適用条件を見直し、困窮学生をより救済できる制度にする。
- ・「食」を通じて各種イベントを企画し、学生支援を行う。

17 進路支援センター

(1)キャリア支援体制の充実

①就職対策の充実

- ・実就職率95%に向けて、就職希望業種を個人面談で早期に把握する。
- ・「就活塾」(※5)を継続し、在籍者数に対し90%以上の参加申込みを目標とする。
- ・他大学合同就活セミナーを企業選考につながる内容で企画、実施する。
- ・三省合意のインターンシップ改正において情報収集を行い、変革に備えた対応を行う。合わせて学内インターンシップ実施も検討する。
- ・新規企業開拓を行い、学生への紹介に繋げる。
- ・子ども教育学科の企業志望者に対し早期の企業案内を行い、学内での説明会も検討する。

- ・アオキヤリ(※6)の学生利用率90%以上を目標とし、情報収集の必要性を伝える。
- ・国家試験対策教員との連携を図り、後期に就職活動中の学生の状況を把握するとともに、就職活動の支援に活かす。

(2) 事業活動支出の圧縮

①適切な人件費コントロール

- ・セミナー内容の見直し、無料セミナーの利用や職員が実施することで講師費用の削減を図る。

18 FD 推進委員会

(1) 教育改革の実現

①学生の満足度の向上

- ・WEBでの授業アンケートを引続き実施し、実施率90%以上を目指す。

②SD/FD等の研修プログラムの整備・実施

- ・令和5年度は、「アクティブ・ラーニング」および「教育の質保証」をテーマにFD研修会を実施する。

③公開授業

- ・前後期とも1回ずつの授業公開期間を設け、2～4週間の授業公開期間の設定を行う。

19 SD 推進委員会

(1) 教育改革の実現

①SD/FD等の研修プログラム

- ・中期計画の「職員の継続的な資質向上」を目的に、令和5年度前年度のSD研修会後に実施したアンケートを参考に、ニーズの高いテーマを題材にSD研修会を企画し、年間8回以上開催する。
- ・職員間の相互理解および個人のスキルアップ向上に繋がる研修内容を企画し、職員の人材育成に貢献する。
- ・コンプライアンスやハラスメントに関する研修会は、全教職員が参加および視聴できるように配慮し、研修会開催後、研修資料の掲載や研修内容の動画配信等も弾力的に対応していく。

vi 部門別事業計画

青山幼稚園

(1) 教育改革の実現

①英語クラスの創設を検討し、社会のニーズに応え、園児数増加を図る。

②大学との連携強化及び保護者アンケートを踏まえた保育内容の充実

- ・大学との教育面、運営面での連携強化を図り、教育内容の充実策を展開する。

③預り保育時間の延長、未就園児クラスの充実

- ・中期計画の重要施策として開始した「預り保育時間の延長」、「未就園児クラスの充実」については、令和5年度も継続展開していく。

(2) 保護者満足度の向上

① 保護者アンケートの実施・活用

- ・保護者アンケートを実施し、結果を分析するとともに、保護者の満足度向上に寄与する各種施策を実施する。特に継続実施の声の強いブログによる情報発信、遊具等の既存設備の計画的な更新、給食等の改善等については、令和5年度も注力し更なる改善に努める。

(3) 地域社会との連携に関する取組

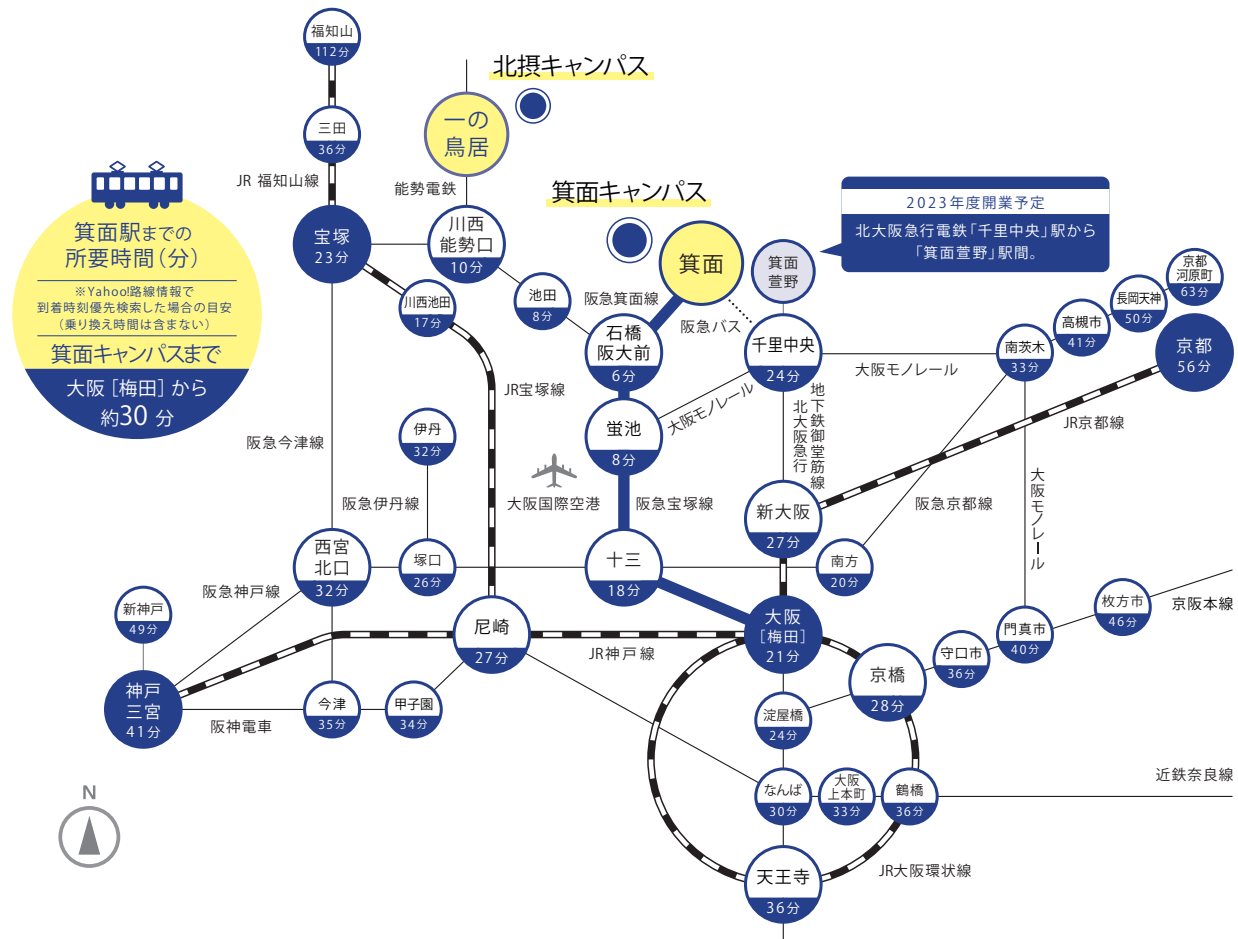
① ガンバ大阪との連携イベントの実現

- ・ガンバ大阪とのスポーツイベントの実現を図り、積極的な広報活動を展開する。

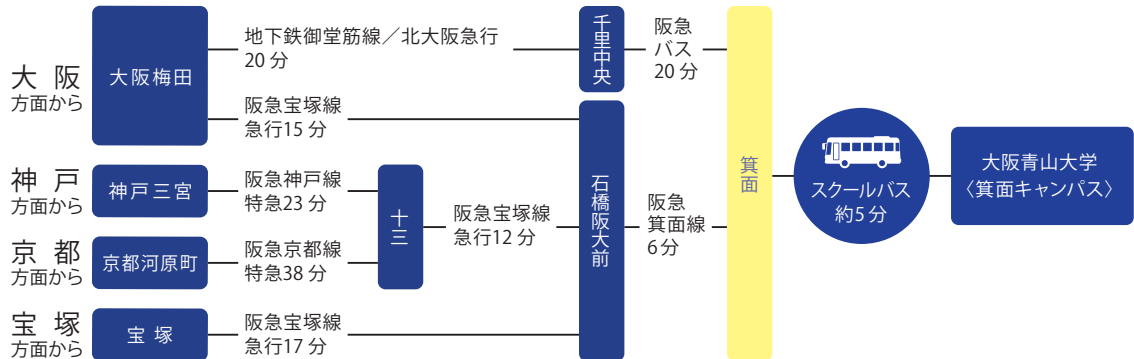
【語句の説明】

- ※1 GPA (グレード・ポイント・アベレージ) : 対象科目の GP (成績の評価) から算出される総合成績のことである。
- ※2 IR : 一般に、教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究や、効果的な経営を支援する活動である。
(Institutional Research の略)
- ※3 特別時間 : 各学年のクラス担任が担当し、学生の学修指導、学修相談のみでなく、生活状態の把握や就職の相談まで、一人ひとりの学生に幅広く対応している。
- ※4 SA (スチューデントアシスタント) : 学生が大学生活全般について、学生の立場から支援する制度。
- ※5 A ポータル : 教職員、学生が活用する学内の共有システム。
- ※6 就活塾 : 企業へ早期内定を目指すための就職活動支援プログラム。
- ※7 アオキャリ : インターンシップ情報や求人検索、就活情報を主とした学内検索システム。

Access



主要な駅からのルート
※乗り換え時間は含まない



箕面キャンパスまで

- 阪急箕面線「箕面」駅下車、西へ1.3km(徒歩約20分)またはスクールバス約5分
- 阪急宝塚線「池田」駅より阪急バス「東のりば3」「東畑」方面行き「東畑」下車、東へ800m
- 千里中央方面からは、阪急バスで阪急「箕面」駅へ
- 大阪空港から車で約20分

北摂キャンパスまで

- 阪急宝塚線「川西能勢口」駅乗り換え能勢電鉄「一の鳥居」駅下車すぐ



□健康科学部
健康栄養学科 / 看護学科

□子ども教育学部
子ども教育学科

お問い合わせ TEL.072-723-4480 (入試部)
MAIL. adm21@osaka-aoyama.ac.jp

[箕面キャンパス] 〒562-8580 大阪府箕面市新稲2-11-1
[北摂キャンパス] 〒666-0113 兵庫県川西市長尾町9-8

【オフィシャルサイト】
URL. <http://www.osaka-aoyama.ac.jp>



【会場説明会】
あなたのマチで進路相談!



LINEで最新情報をお届けします。
「友達追加」から二次元コード、またはID検索「@osaka-aoyama」で登録!



大学の最新情報を写真とともに紹介!
公式Facebookページで、イベント情報や日常風景などをアップしています。



Twitterで情報を発信しています。
アカウント名「OsakaAoyamaUniv」または、二次元コードからフォロー!



Instagramで最新の情報を写真とともに紹介。
キャンパス・イベントニュースなどを掲載していきます。是非、大学の魅力を感じてください。